

EPO中部による
ローカルSDGsと
地域課題の同時解決

2021年11月17日・能登SDGs市民大学(第2回講義)

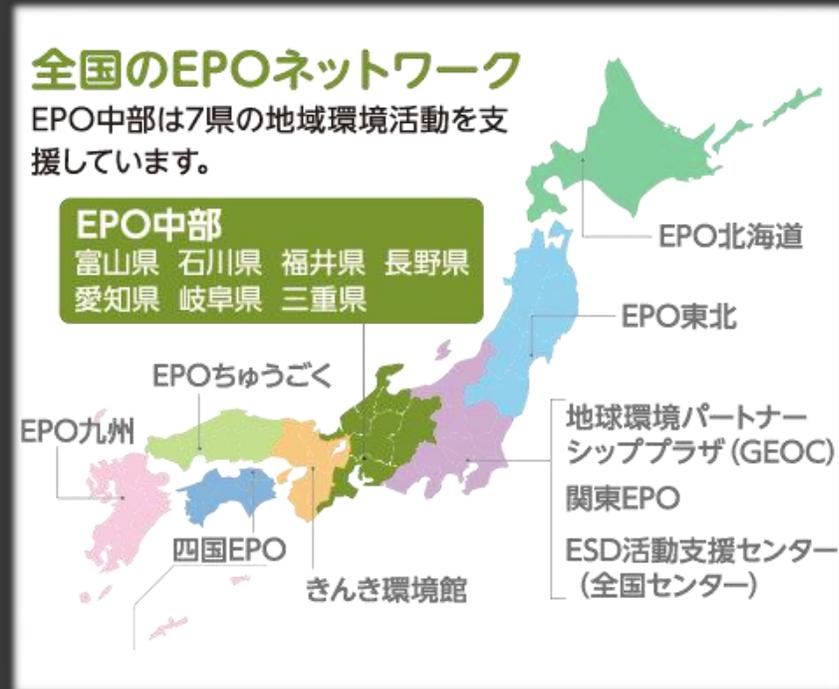
環境省 中部環境パートナーシップオフィス(EPO中部)
富田夏子

「EPO」とは

「EPO;環境パートナーシップオフィス」は、協働取組を構築・促進する中核的な担い手として、環境省が環境教育等促進法に基づき全国に設置した施設・組織。

「EPO中部」は

富山県、石川県、福井県、長野県、愛知県、岐阜県、三重県の中中部エリアで、SDGsの推進・実践や環境活動に取り組む皆さんをサポートする環境省の施設です。持続可能な地域づくりにEPO中部をご活用ください。



こんな時はEPO中部へ

情報が知りたい、情報を収集したい

「協働、ESD・SDGsに関わる情報」
「国や自治体などの環境保全、環境学習等に関わる施策・計画」
「全国の／地域の環境活動の動向」
「ほかの地域や団体等の取組事例やイベント」
などの資料やパンフレット等を入手できます。
(一部資料は閲覧のみとなっています。)



相談・照会したい、紹介してほしい

環境保全活動や環境学習、ESD・SDGs、地域づくり・人づくり・ネットワークづくりなどに関わる相談・照会を受けています。

◆例えば(実績)

- ・小学校での環境学習の講師役の紹介
- ・SDGsに関連するCSRイベントの企画
- ・地域住民との意見交換会への出席者の紹介 など



ちょっとした会議や打合せにも

ミーティングや資料閲覧などに、施設内のフリースペースをご利用いただけます。

※会議・打合せなどの長時間利用の場合は、事前にご連絡いただけますと幸いです。



広報したい、PRしてほしい

中部地方の環境活動やESDに関わる活動についての情報発信をウェブサイト、メルマガなどで行っています。参加募集の広報を行いたいイベントや、広くPRしたい活動などがございましたら、情報をお寄せください。

◆EPO中部／中部地方ESD活動支援センターからの発信媒体

EPO中部：<http://www.epo-chubu.jp/>

中部地方ESD活動支援センター：<http://chubu.esdcenter.jp/>

メルマガ：そらいる通信 ～EPO-Chubuメールマガジン～

(毎月第2火曜配信)

本日お話しすること

キーワードはローカルSDGsの

- 地域課題(環境・社会・経済課題)の同時解決
- バックキャストイングとフォアキャストイング
- 多様な主体による協働(パートナーシップ)

具体的な事例(環境省事業)の紹介として

SDGsを活用した地域課題の同時解決事業の事例から

- **飯山林福連携事業**(2018-2019年度採択)

地域循環共生圏づくりプラットフォーム構築事業の事例から

- **郡上市地域共生圏協議会の取組**(2020年度～採択)

SDGsと2030アジェンダ三つの特徴

(でも、あまりうまくできない)

- **俯瞰的複合的視点による複雑系問題把握**
すべてのことを同時に見る
- **バックカスティング型対応**
未来から今を考える
- **多様性と協働の重視⇒ボトムアップ型行動**
互いの価値を認めて自らみんなと動く

※アジェンダ…計画、議事・議題、協議事項、検討課題などと訳されることが多い。

※2030アジェンダ…国連持続可能な開発サミットの成果文書「我々の世界を変革する:持続可能な開発のための2030アジェンダ」。この中にSDGsは整理されている。

すべてのことを同時に見る

＜俯瞰的複合的視点による複雑系問題把握＞

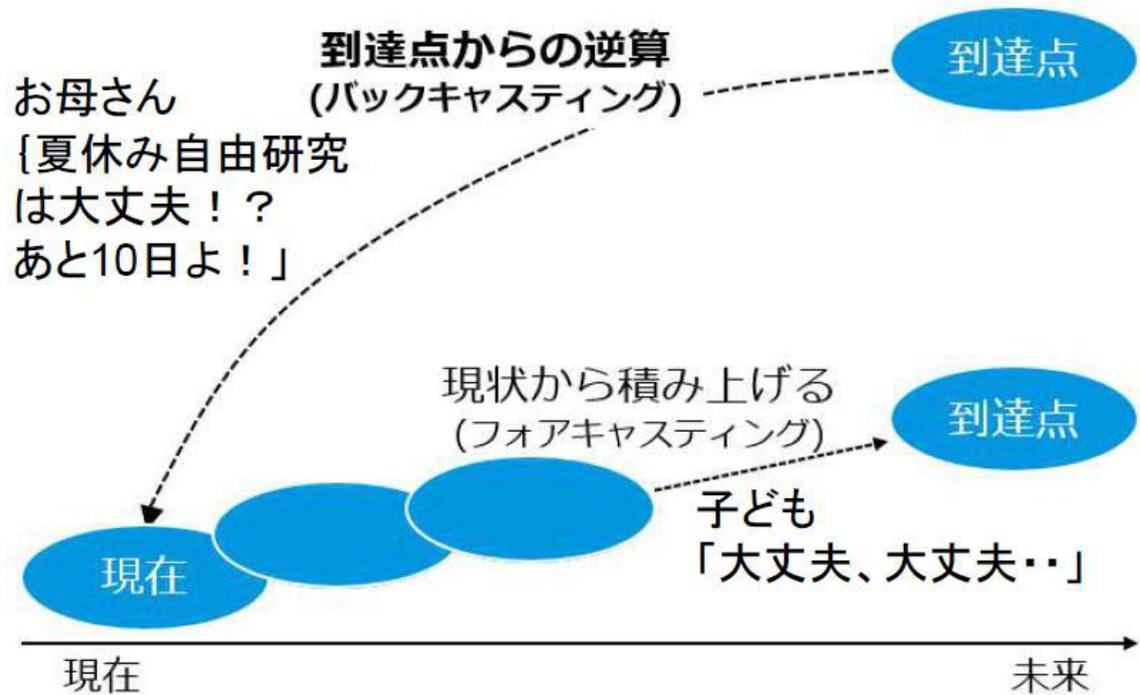
- ・17ゴール「すべて」が達成されることが必要
- ・「環境」、「社会」、「経済」課題の同時解決
- ・相乗効果とトレードオフ



未来から今を考える

<バックキャスティング型対応>

- ・目標年次2030年とゴール、ターゲット、指標
- ・象徴的な気候変動問題
カーボンバジェット、パリ協定



<https://www.env-value.co.jp/columns/columns-143/>

互いの価値を認めて自らみんなと動く

＜多様性と協働の重視⇒ボトムアップ型行動＞

- ・だれ一人取り残されない
 - ・ゴール17パートナーシップ
 - ・地域循環共生圏
- ＝ローカルSDGs(地域におけるSDGs実践)



ローカルSDGsの事例

EPO中部が実際に
支援を行った取組の紹介

その前に・・・

EPOは協働による環境活動・事業を《支援》する
「中間支援組織」である



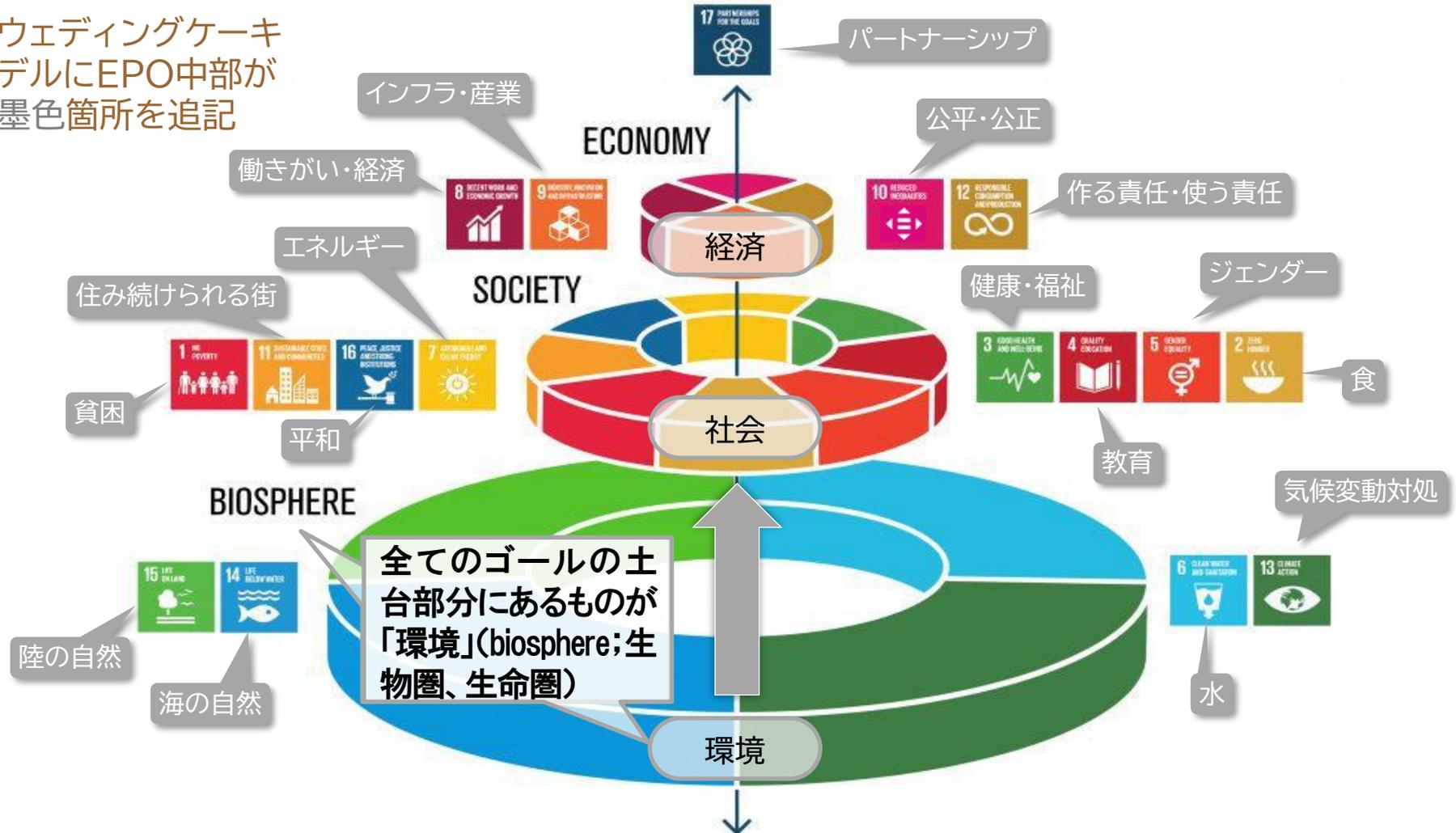
EPOにとっての ローカルSDGsとは



SDGsでは「環境」が・・・

相互に関連するSDGsの例: ウェディングケーキモデル

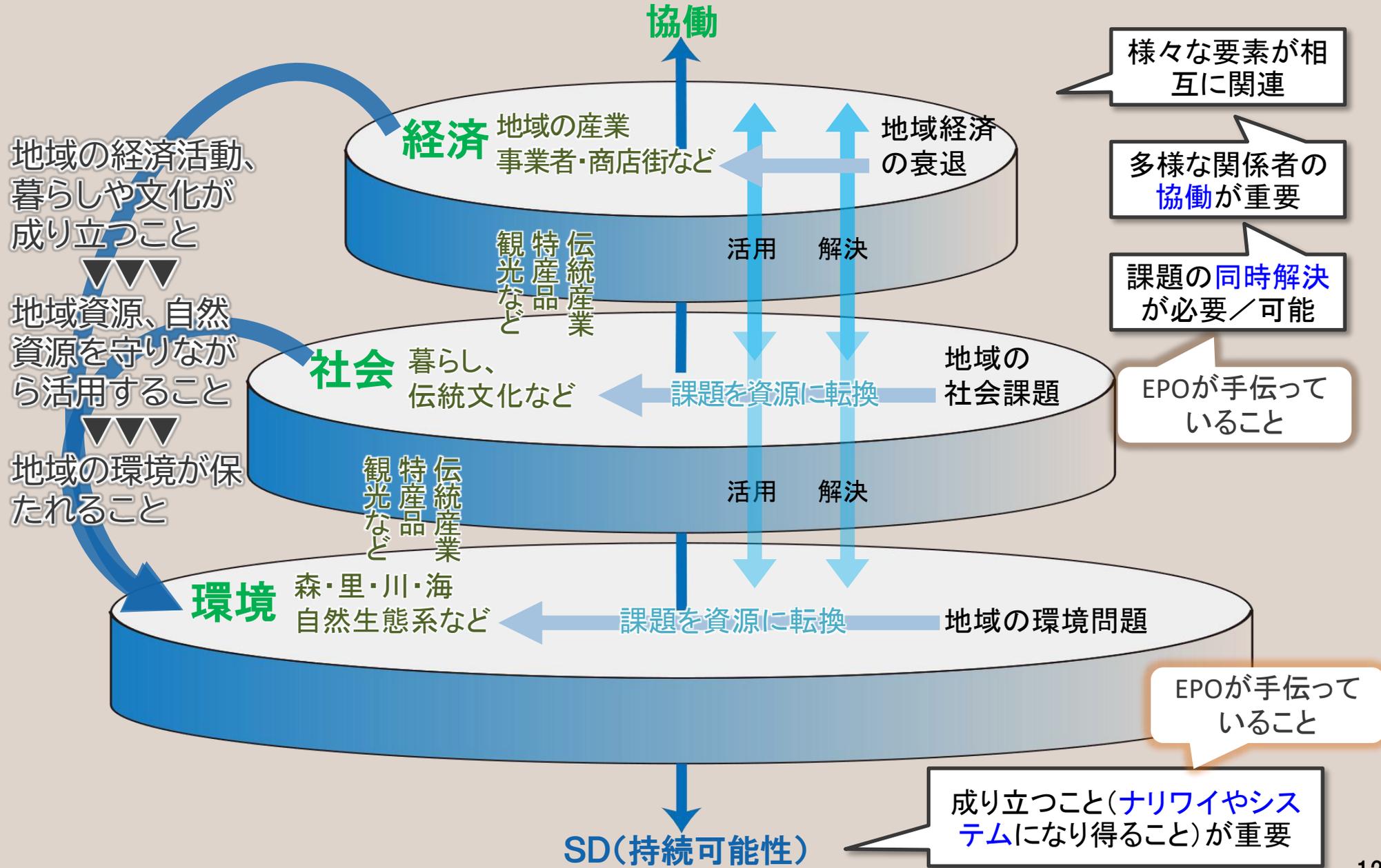
※ウェディングケーキモデルにEPO中部が薄墨色箇所を追記



出典: Stockholm Resilience Centre <http://www.stockholmresilience.org/research/research-news/2016-06-14-how-food-connects-all-the-sdgs.html> <https://ippjapan.org/archives/2408>

Graphics by Jerem Lubanski/Ozono

EPO中部の関わってきたローカルSDGs; 地域循環共生圏づくり



事例その1

飯山林福 連携事業



長野県飯山市で活動する任意団体・里山ウェルネス研究会が取り組む飯山林福連携事業が環境省の「同時解決事業」に採択され、EPO中部が2年間、伴走支援を行いました。

環境省のSDGsを活用した地域課題の同時解決事業(2018-2019年度)に採択

活動エリアの 里山の林業と 人工林



チップかバイオマス発電用にしか使えないような質の悪い木材。経済的な価値は低い。



付加価値により 新しい木材加工品を考案

- 見た目がきれい; イベント、セレモニー向き
...用途の明示で多用途化
- 木くずがあまり出ない; 汚れにくい
...店舗販売、贈答用
- ムシが入りにくい; 長期保存に良い
...防災用?
- 皮むきは慣れると比較的簡単、そして楽しい
...障がい者による作業も可能



「飯山ログファイヤー」生産を
林福連携展開できないか



飯山ログファイヤー

- 丸太の上部を加工して着火スピード向上。
- 性能的に向上させたログファイヤーだが、チェーンソーを扱える人にはすぐにつくれる。

森林(もり)づくり(里山保全・林業)と福祉の同時解決

地域課題① 里山整備等が出た間伐木材の利用が進まない。

地域課題② 障がい者等の就労支援においては、実習先の確保等が課題。

地域課題③ 冬の期間(積雪期)における林家や林業従事者の収入減少

地域課題の
同時解決を
目指して

林業家と障がい者の自立支援NPOが連携した取組

間伐材の未利用木材商品の付加価値と障がい者支援

- ①未利用木材の新しい活用方法、林業家の新たな収入源の確保
- ②福祉施設入所者等の新しい支援先、支援方法の開発
- ③里山への地域の関心向上、里山保全へ

ややバックキャ
スティング？



2年間の取組

2年間に実施したこと

実施中・実施予定の取組

当初計画になかった展開/SHのアイデアを実施

間伐材の活用+森林空間の活用の仕組みづくり →地域の里山に対する関心向上、関係人口の創出

バックキャストであり
フォアキャストであり

大学と連携して森林空間における認知症予防プログラムの実証研究

飯山市と連携して森林セラピー事業(従前から展開)

里山の維持管理に利用する林道を整備(県事業)

大学と連携して間伐材を活用した古民家建築プロジェクト

大学生の出張カフェ・サークルにログファイヤー提供

里山・森林空間を活用した環境学習プログラムづくり

障がい者が加工作業を行ったものを「飯山ログファイヤー」と命名

障がいのやりがいづくりとして作業者「コメントカード」を実施予定

障がいの作業の安全確保のための「治具」の工夫・開発(継続中)

障がいの作業実証 ⇒ 作業の安全性・使いやすしい道具などを検証

作業に参加した障がい者、支援NPO等への意識調査

飯山市内のほかの福祉施設・団体による実証の継続

地区住民(自治会役員等)への説明

林業家・地域住民を対象にログファイヤー製作講座開催 ⇒ ログファイヤーの製作方法の普及と地域材化

ログファイヤー製作手順マニュアルづくり

ログファイヤー使用者への利用意向調査

旅行会社に里山体験プログラム提案

燃焼実験 ⇒ 含水率別の着火時間の計測



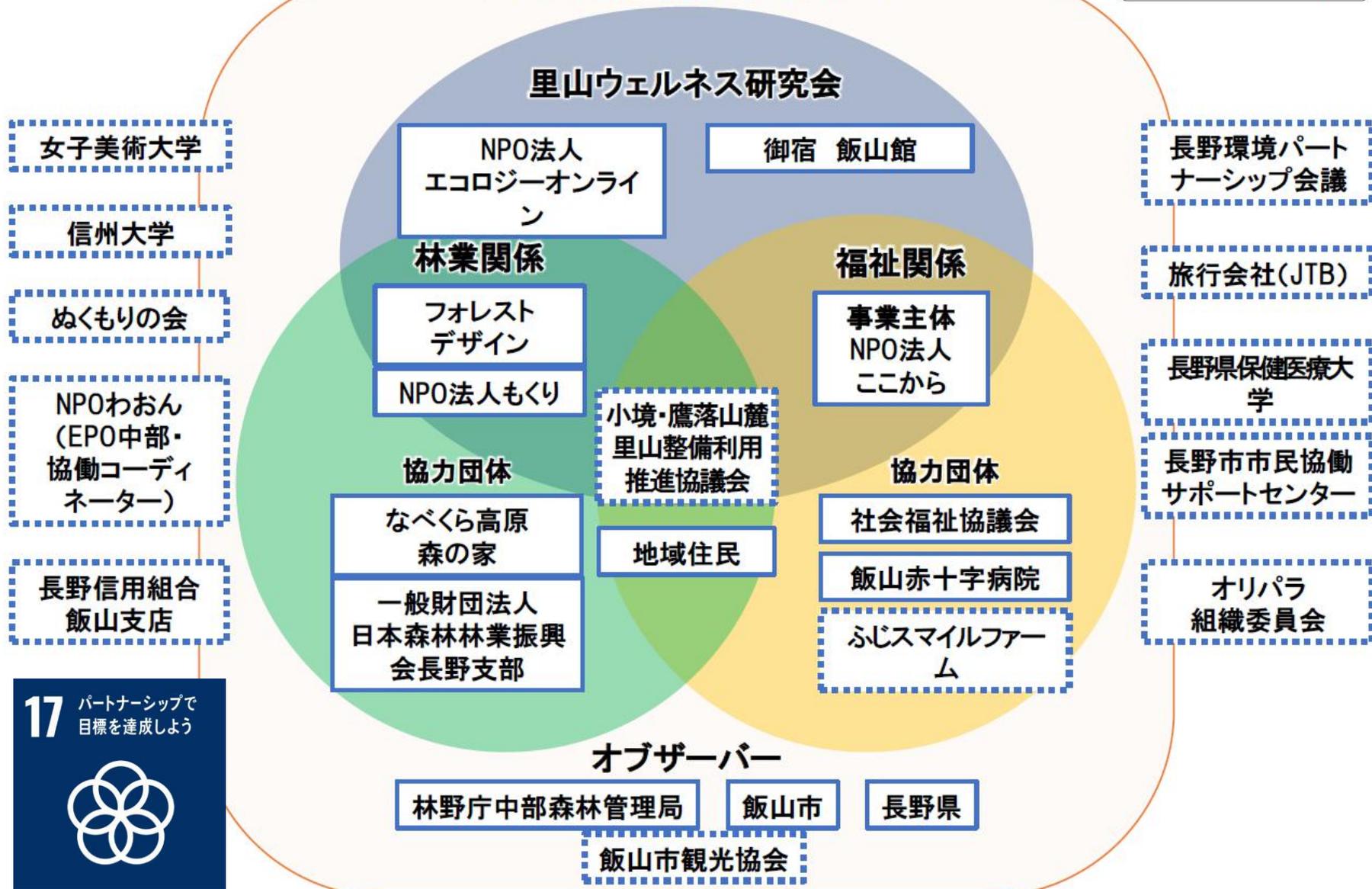
障がい者による木材加工作業を実証
自立支援 ↓ 木材加工品の付加価値として発信

間伐材でログファイヤーの生産・販売、地域に普及
↓未利用間伐材に付加価値創出して活用

ステークホルダー (2020年2月現在)

 : 当初からのSH
 : 事業を進める中で協力のあったSH

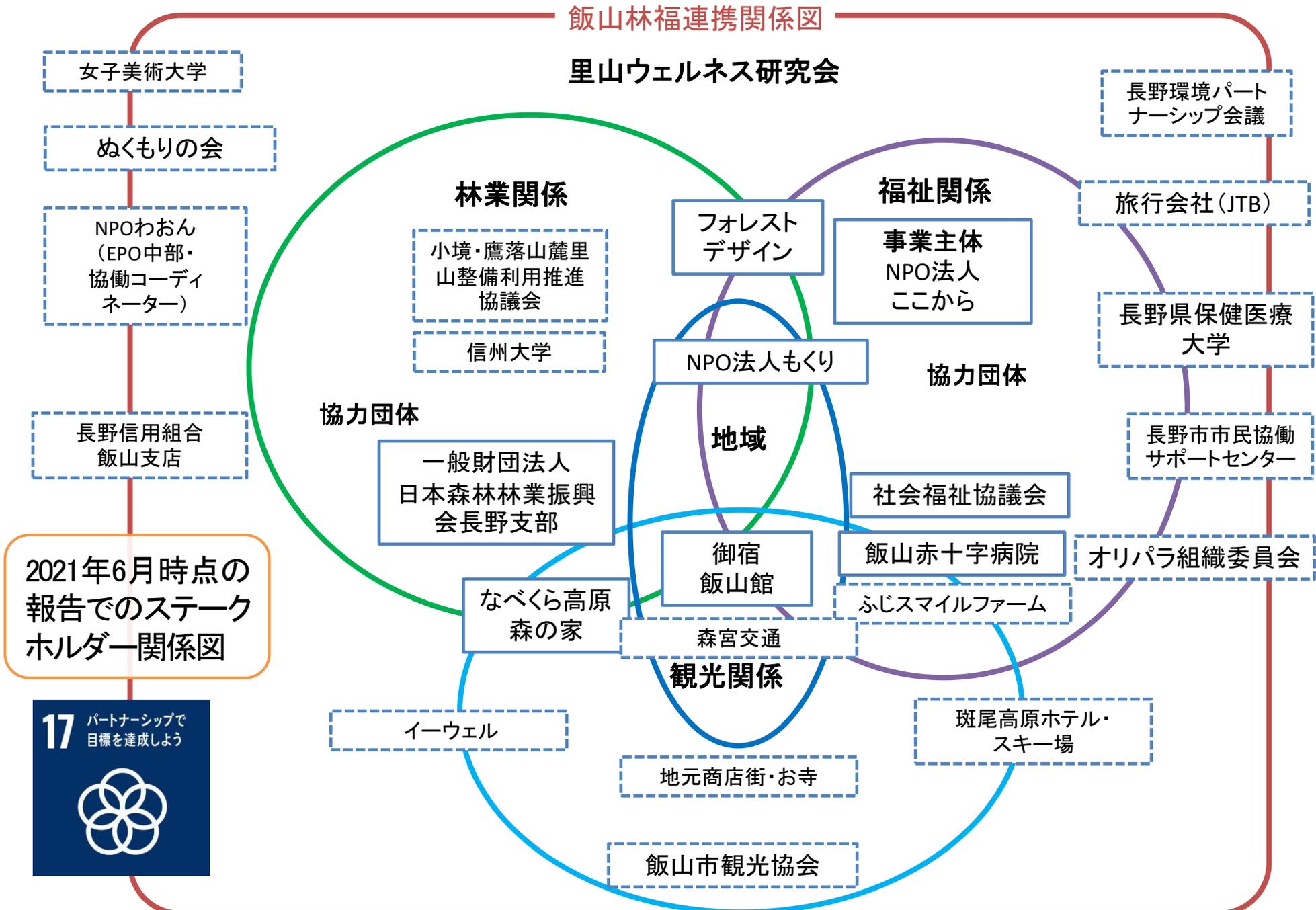
飯山林福連携推進協議会



17 パートナースHIPで
目標を達成しよう

飯山林福連携関係図

里山ウェルネス研究会



2021年6月時点の報告でのステークホルダー関係図

17 パートナーシップで目標を達成しよう



本事業での位置づけ

「飯山ログファイヤー」

障がい者等が加工・生産作業を行ったログファイヤーと位置づけ

「飯山ログファイヤー」の付加価値として発信していくこと
着火しやすい、保存に適しているなどの機能面に加えて、障がい者の方たちが加工・生産作業を行っていること

- 福祉施設の方がログファイヤー生産の加工に携わる生産のため1人を新規雇用
- 福祉施設の方が2年間でのべ約25人が加工作業を行い、飯山ログファイヤー約50本を生産・加工
- 障がいのある方の生活の場の増加、選択肢の増加



環境

【課題】間伐された木材利用が進まない
・里山の手入れの不足
・資源循環が進まない
・冬の雪の量が多い

- 障がい者の「森の利用」にもつながっている
- 地域の方が地元の里山・森・木に関心をもつように；里山の林道整備等(地域側も一部事業費負担あり)にも地域住民の賛成で促進へ
- 里山の間伐した場所にカタクリが生育しはじめた

社会

【課題】障がい者の雇用支援の不足
・里山の整備人口の高齢化、里山の整備人口の減少
・地域住民の意識の低下
・地域でのつながりが少ない
・障がい者の受け入れ場不足

- 産学官民が生み出す林福連携事業になった
- 福祉と林業(森林)系の方が話し合う場ができた

「森林サービス」産業の取組

→新たな飯山版「里山サービス」のスタート

経済

【課題】冬期の林家及び林業従事者等の収入の減少
・冬場の働き場の不足
・新しい木材製品が生まれてこない
・地域経済循環が少ない

■ ログファイヤー販売(全国)展開

■ 地元キャンプ場、ホテル等から発注の動き

■ 未利用間伐材に価値を付加

■ ログファイヤー製作体験会で地域の林業家や住民にログファイヤーの製作方法を普及(計13人が参加)

■ ログファイヤーの規格を明確化

■ 飯山ログファイヤーの地域イベントでの活用



＜作業した障がい者・施設スタッフの声(作業検証アンケート結果より)＞

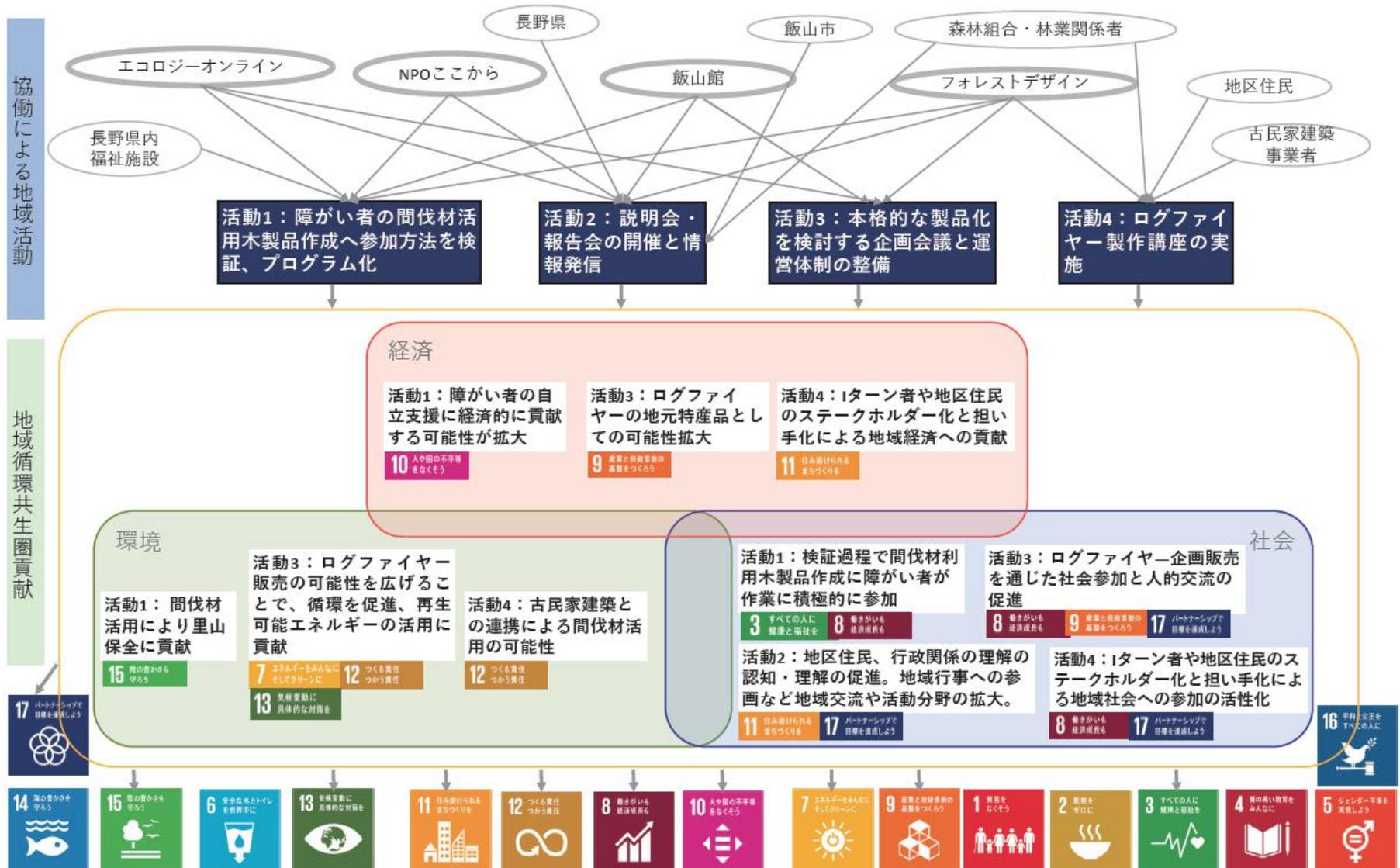
■ 楽しかった。始めは難しかったけど、やりやすい道具も作ってくれて良かった。■ はじめは緊張したけど、少しずつ慣れていった。まだ、緊張はするけど、楽しかった。■ 施設から出た作業は利用者のモチベーションが上がったように感じた。■ 作業を通じて他の人(林業家)と関わり、指導を受けていくにつれて、少しずつご本人が自信をもって活動していく様子が見られた。

EPO中部の「活動見える化プログラム」で取組の内容・成果を整理

里山保全体験を通じた障がい者雇用促進（里山ウェルネス研究会／長野県飯山市）

EPO中部：原（2019）

〔①森林保全のために間伐された木材利用が進まない②障がい者雇用支援の不足③冬期の林家及び林業従事者等の収入減少〕の課題に対し里山ウェルネス研究会を設立。環境省「持続可能な開発目標（SDGs）を活用した地域の環境課題と社会課題を同時解決するための民間活動支援事業」に選定され、関係団体を組織化しログファイアー（間伐材活用の木ろうそく）などの間伐材加工に障がい者が参画する林福連携プログラムを開発し里山地方の地域活性化を図るモデルを創出することとした活動を推進。



* 今後の活動とテーマ (2021年6月26日時点)

* 未利用材を活用したログファイヤーにおける林福連携

* 森林環境を活用した認知症予防及び障がい者の自立支援改善の取り組み事業

* 観光事業と連携した里山体験における里山改善と健康

里山保全
(体験・モニタリング)



健康づくり
(個人・企業)

事例その2

郡上市 地域共生圏 協議会



岐阜県郡上市で地域循環共生圏の実現に向けて、地域の未来像(ローカルSDGs)づくりに取り組む環境省事業に選定され、EPO中部が伴走支援を行っています。

環境省の地域循環共生圏づくりプラットフォーム構築事業(2020年度～)に採択

郡上市地域循環共生圏勉強会

全4回
参加費
無料

地域内で、人、物、お金が回る
仕組みを作って、みんなで、

「持続可能な郡上」を作ろう

対象 郡上市民、郡上市内の企業、郡上市内の団体
市役所関係者等、その他、ご興味がある方。

申込 バックキャストメールでお申込みください。
地域循環共生圏づくりを再エネで実現。新しい地域ビジネスで地域内にお金の好循環を！（同時解決）

2020年度の取組

- 協議会設立1年目となる2020年度は、地域関係者の有志が集まり、地域循環共生圏についての勉強会を4回開催しました。
- 毎回、郡上市内の事業者や地域づくりに取り組む活動者などが20名ほど集まりました。

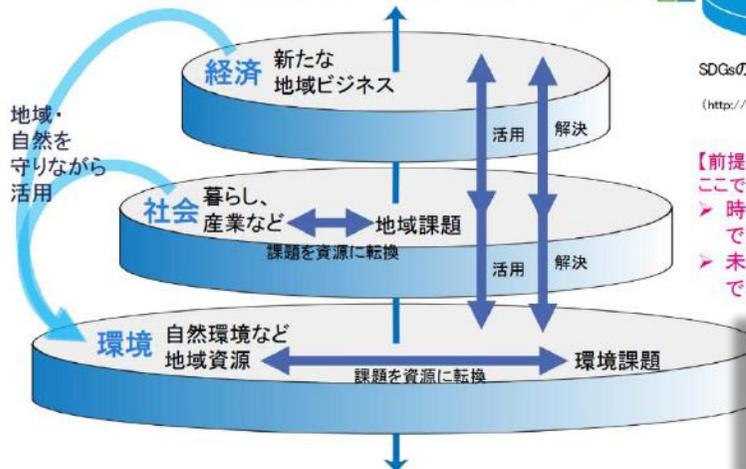
日時	会場	テーマ
8月28日（金） 13:30～16:00 録画配信	総合文化センター 多目的ホール	地域循環共生圏って何？ 環境省曾山信雄氏等のスピーカーを迎え、地域への想いや考えを共有する
9月29日（火） 13:30～16:00 録画配信	白鳥ふれあい 創造館	再生可能エネルギーを見直す 再生可能エネルギーを地域循環共生圏づくりの資源として見直す
10月28日（水） 13:30～17:00 録画配信	白鳥ふれあい 創造館	ローカルSDGsをデザインする 郡上市版ローカルSDGsを、ワークショップでデザインする
11月25日（火） 13:30～17:00 オンライン配信	白鳥ふれあい 創造館	地域ビジネスを再考する 地方創生イノベーター谷中修吾氏を迎え、地域ビジネスアイデアをワークショップで創造する

主催：郡上市地域共生圏協議会 協力：環境省EPO中部

- 地域循環共生圏について学びました。
講師：環境省中部地方環境事務所
- 再エネについて学びました。
講師：太陽光発電の事業者、小水力発電の市内活動者
- “なりたい地域の未来像”（ローカルSDGs）づくりワークショップを実施。
WSファシリテーター：EPO中部
- 地域ビジネスについての講演とワークショップを実施。
講師：谷中修吾氏（BBT大学教授）
WSファシリテーター：EPO中部

マンダラ（ローカルSDGs）の組立

2020年10月28日現在
このPFで実現したいと思う地域の未来像



【前提として】
ここでの未来像は
▶ 時間・メンバー等々で変化していくもの
▶ 未来像を「決める」のではなく「共有」する

第3回勉強会 2020年10月実施

EPO中部のファシリテーションで「ローカルSDGs」ワークショップを実施。



17 パートナーシップで
目標を達成しよう



地域の多様な人材が参加して『SDGsのウェディングケーキ』を基に、地域の中で守り、活用すべき地域の要素を抽出。

これを整理し、ヒントにして、事務局が地域の未来像（環境省事業の通称「地域版マンダラ」）を作成。



第4回勉強会 2020年11月実施

EPO中部のファシリテーションで「地域ビジネス」ワークショップを実施。

地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化ミーティング

郡上の未来づくり ビジネスを考える

日時：2020年11月25日(水) 13:30～16:00
会場：白鳥ふれあい創造館 交流ホール (210号室)
オンライン視聴：一部をYouTubeでライブ配信

- ・YouTubeのライブ配信は、下のプログラム1～3となります。
- ・来場参加は、郡上市の在住者や事業者・通勤者のみとさせていただきます。
- ・来場参加、オンライン視聴ともに事前の申込が必要です(参加無料)。
- ・参加・視聴の申込方法の詳細は、ウラ面を参照願います。

1. ごあいさつ 環境省中部地方環境事務所
2. 講演
縄文型SDGsの超絶まちづくり
～自然と共存共生する1万年の奥義とは～
谷中修吾氏
(地方創生イノベーションプラットフォーム INSPIRE 代表理事/
BBT大学経営学部グローバル経営学科学科長・教授)



●谷中氏プロフィール● 静岡県出身。東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻卒業。外資・戦略コンサルティングファームBooz Allen Hamiltonを経て、ビジネスプロデューサーとして活躍。国内最大級の地方創生イノベーションプラットフォーム「INSPIRE」を創設。地方創生分野において、内閣府、総務省、環境省、農林水産省、文部科学省で有識者を務める。慶應義塾大学SFC研究所「地域デザイン・ラボ」総合プロデューサー。著書「最速の縄文型ビジネス」(日本経済新聞出版社)。

3. 話題提供
岐阜県下における最近の経済情勢について
高橋 成守氏 (財務省東海財務局岐阜財務事務所 財務課長)
4. 地域ビジネスのアイデア共有ワーキング (※会場参加のみ)
ローカルSDGsの共有と地域ビジネスの創発へ

主催：環境省中部環境パートナーシップオフィス (EPO中部)

谷中修吾氏 (BBT大学教授)による講演「縄文型SDGsの超絶まちづくり～自然と共存共生する1万年の奥義とは～」と共に、「地域ビジネス」のアイデアを抽出するワーキングを実施。



ここでの「地域ビジネス」は地域の未来づくり・魅力づくり／地域課題の解決をビジネスとして(経済性を確保して)展開する取組であることが前提。この時の参加者からは、能動的な(自分が行いたい)ビジネス・アイデアがたくさん提示された。

地域循環共生圏を実現することで目指す地域の姿

2020年度末に郡上市地域共生圏協議会がPF事業の成果(地域版マンダラ)として提出した地域の未来像

観光立市GUJO



地域課題解決型事業

再エネ・省エネ事業

前年度作成した地域の未来像をもとに2021年度は

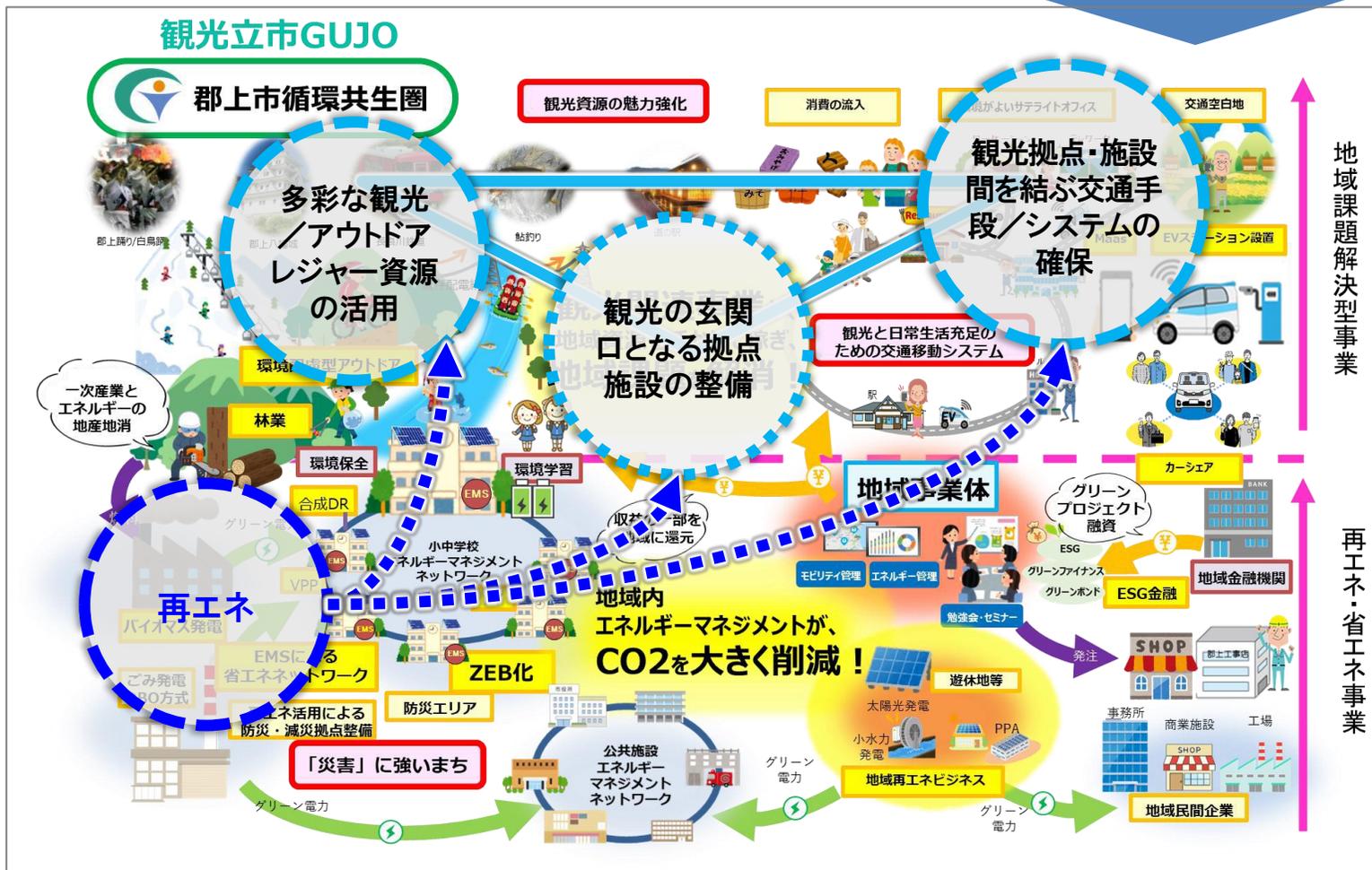
前年度作成した
地域版マンダラ

できるところから実現を図る

市内の観光事業者と連携して地域内で経済が循環するローカルSDGsのシステム(体制・仕掛け)づくりに取りかかる予定

観光／アウトドアレジャー
+

再エネ／ローカルSDGs／サステナビリティ



GUJO OUTDOOR WEEK 2021

CONCEPT

コンセプト

岐阜県 郡上市

外あそび × 未来の拠点 × サステナブル

GUJO OUTDOOR WEEK 2021

SAT SUN 10/30.31 SAT SUN 11/06.07

郡上の未来を考える…アウトドアの祭典

郡上全域が会場となるアウトドアイベントです。

セントラル会場ではアウトドアや自然に関するブースや様々な飲食店、ショップが軒を連ねます。そして、市内の各会場では初心者からベテランまで楽しめる体験プログラムが盛り沢山。

セントラル会場でゆっくり過ごしたり、各会場を回ってみたり。様々な体験プログラムに参加するなど。あなたに合わせたスタイルでお楽しみください。



100年先も郡上に
遊べる川と雪山を残す為に。



未来の環境のことを考えながら、
郡上のフィールドで、
どっぷりとアウトドア体験に浸る4日間。
私たちが今できることをいっしょに考える第一歩に
したいと考えています。

郡上アウトドア事業者協議会

セントラル会場 入場無料

「できることから」始める。未来の拠点



11/06 07 SAT SUN DAY.1 10:00~20:00 DAY.2 10:00~15:00

セントラル会場

アウトドア関連のショップや地元が誇る飲食ブース、子ども向けの体験からアクティビティまで、持続可能な地域社会を実現するための魅力的なブースが並びます。

 会場内駐車場はご利用いただけません。

セントラル会場へのアクセス方法

最寄り施設駐車場への案内・車いす駐車場



環境省ローカルSDGs 「地域循環共生圏づくりプラットフォーム」 サイト

<http://chiikijunkan.env.go.jp>

こちらのサイトで全国の地域循環共生圏づくり事業の事例が紹介されています。

2019年度から2021年度にかけて選定された団体が作成した「地域版マンダラ」(ローカルSDGs／なりたい地域の未来像)も公開されています。

環境省ローカルSDGs
地域循環共生圏づくりプラットフォーム

自然も経済も持続可能、そんな社会創りを応援する

環境省ローカルSDGs
~地域循環共生圏づくりプラットフォーム~

企業の方へ 地域の方へ

新着情報

- 2021/5/21 **更新情報** 「地域循環共生圏地域版登録制度」に2団体（東京都1団体、滋賀県1団体）を追加登録しました。引き続き登録を受け付けています。
- 2021/5/13 **お知らせ** 令和3年度環境省主導の地域循環共生圏に関するメニューを更新しました。
- 2021/4/28 **更新情報** 「地域循環共生圏地域版登録制度」に3団体（青森県1団体、京都府1団体、福井県1団体）を追加登録しました。引き続き登録を受け付けています。
- 2021/4/28 **更新情報** 「企業等登録制度」に2事業者（No.92～93）を追加登録しました。引き続き登録を受け付けています。
- 2021/4/22 **お知らせ** 令和2年度活動団体の発表資料を追加しました。

地域循環共生圏とは

「地域循環共生圏」とは、各地が足もとにある地域資源を最大限活用しながら自立・分散型の社会を地域の特性に応じて資源を補充し支え合う環境・経済・社会が統合的に循環し、地域で採掘されることを目指す考え方であり、地域でのSDGsの実践（ローカルSDGs）

「地域循環共生圏」とは、各地が足もとにある地域資源を最大限活用しながら自立・分散型の社会を地域の特性に応じて資源を補充し支え合う環境・経済・社会が統合的に循環し、地域で採掘されることを目指す考え方であり、地域でのSDGsの実践（ローカルSDGs）

EPO中部で構築・作成した “独自ツール”



活動見える化プログラム

EPO中部では、協働取組の支援のため「活動見える化プログラム」を構築し、地域活動における地域循環共生圏やSDGsへの貢献を可視化する分析手法として活用しています。



SDGsチェックリスト

SDGsチェックリストは事業や活動を17ゴールと関連づける『気付き』のためのツールで、中部地方ESD活動支援センター（EPO中部）のオリジナル・ツールです。



EPO中部・ 協働コーディネーターのリスト

協働取組の促進には、協働コーディネーターの存在が不可欠とされています。EPO中部は地域の人材である協働コーディネーターの活用促進にも取り組んでいます。

いずれもEPO中部ウェブサイトで公開。DLできます。<https://www.epo-chubu.jp>

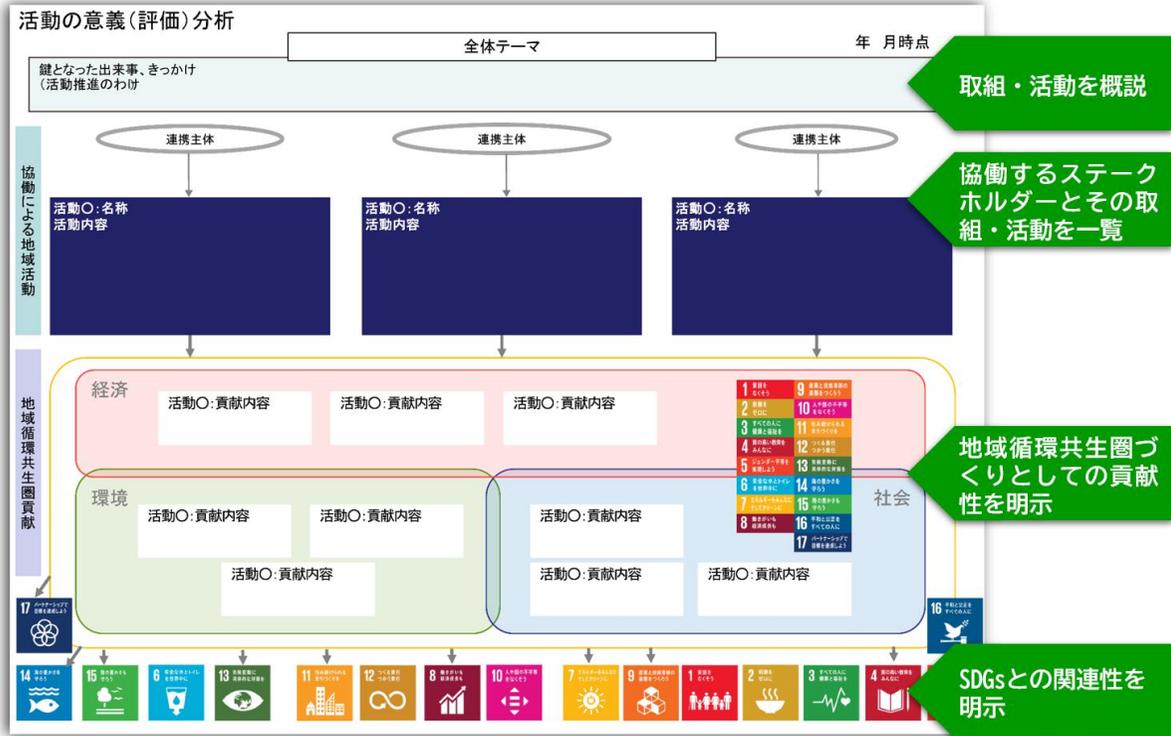
SDGsチェックリスト(基本段階版) ver.1.20

監修：SDGsツール作成ワーキンググループ(2019年度) 発行：環境省中部地方環境事務所・中部地方ESD活動支援センター

〇社会の一員として、すでに行っていることを、振り返ってみる
すでに行っている取組内容を記入し、貢献しているSDGs目標には〇を、
足を引っ張っているSDGs目標には△をつける。

分類と表示	すでに行っている取組内容	SDGs目標との相互関連性チェック!																
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
1. 飲食の提供や管理	食卓、キッチン等の運営管理																	
2. 廃棄物・エネルギー利用	省エネの実践、再生エネルギー利用																	
3. 水利用と排水	節水、雨水利用、排水処理の工夫																	
4. 通勤(通学)、搬送、輸送、配達	公共交通利用、エコカー採用、エコドライブ																	
5. 調達(購入)と廃棄物処理	効率的調達、グリーン購入、地産地消、3R																	
6. 施設と設備	環境配慮建築、持続可能性や多様性に配慮した施設や設備																	
7. 公正な働き方	教育の推進、役割の公平性、多様な関係者の人権の尊重																	
8. 社会参加と交流	地域での連携、地域活動参加など各種コミュニティへの貢献																	
9. 安心・安全	地域防災、地域防犯																	
10. その他の仕事(事業)などを通じた貢献																		
〇/△の合計																		

←
SDGsチェックリスト
ダウンロードして自由に活用いただけます。



活動見える化プログラム

Excel表から簡単に入力できます。
EPOがヒアリングして作成することもあります。



協働コーディネーターとの ディスカッション(2019年度)の結果から

地域循環共生圏づくり、ローカルSDGs推進を支援するための検討を行い、“ツール”を作成することに。

※この時点で各コーディネーターは「活動者」である。

- ① 取り組むことがお金になる(生業になる)ような仕組みにしていこう。
- ② まずは小さなマネジメントではじめて小さな成功を得る。(⇒成果の見える化につながる。)
- ③ 事業それぞれに「適切なエリア」が存在することを認識する必要がある(ビジネス圏域・調達先・販売先としてのエリア設定のあり方)。
- ④ ステークホルダー(関係者)やプラットフォームの中に経営感覚をもった人材が必要である。「活動」にもビジネス、マネジメントの資質・感覚が加わることが重要である)。
- ⑤ そのほか
 - 付加価値の掘り起こしや資金調達をいかに行うか。
 - ステークホルダーの体験共有も重要(データ提示のみでなく視察等でメリット実感など)。

「地域循環共生圏(ローカルSDGs)」に取り組む上で
重要な事項とは
協働コーディネーターの意見を基に
EPO中部が整理

EPO中部が目指していること、
そして、ローカルSDGsについて学びつつある皆さんにも
ぜひ目指していただきたいこと



2021年11月発行・EPO中部／中部地方ESD活動支援センター
の新リーフレット

七尾市及び能登エリアで、

地域課題に取り組むミッション・ドリブンの企業が増えること、
そうした企業に就職したいと考える若者・地域住民が増えること、
そんな企業・担い手のいる地域だからこそ、
住みたい・住みつづけたいと思う人が増えていく……

ローカルSDGsが当たり前になっていく未来で、
好循環の輪がまわりはじめ、拡がりつづけることを期待しています。

本日はありがとうございました。

EPO中部・富田